



日本キリスト教団
三軒茶屋教会
<http://sanchurch.jp/>

三軒茶屋 教会通り

〒154-0024
東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5
TEL/FAX: 03-3418-4933
発行: 三軒茶屋教会 広報部

第39号 2010年7月発行

駅近くの商店街から教会に至る通りが「教会通り」と呼ばれているらしい。住宅街の通りに愛称がある。それだけ多くの人々の目に触れている街に馴染んでいるということだ。日本の諸教会には地名を冠した教会名が多い。その地での宣教を委ねられた教会ということだ。三軒茶屋教会とは、狭い意味では「三軒茶屋教区」を担っている。そもそも「教会」と「通り」には密接な関連がある。歴史的には、大きな通りには教会がたてられてきた。街の本通り、つまり一等地にはまず教会がたつ。なぜなら、人々は鐘の音と共に教会に呼び出されていくからだ。教会通りとは、人々が教会に召し集められ、人々が教会から遣わされていく時に行き交う道となる。宣教地日本においては、教会が街のシンボルとなっているところはあまり多くないかもしれない。むしろ、キリスト教学校のほうが広く地域に親しまれている。その理由の一つは、日本の多くの諸教会が、家の教会を出発点としているからであろう。ある一軒の家からその教会が始ま

教会通りを行き交う

牧師 伊藤英志

る。それは、使徒言行録の時代にあつた教会の姿と重なりを見る。その時代、家の居間が礼拝堂であつた。家の主人がキリスト者になると家族もキリスト者となり、その家の僕たちもキリスト者となる。そして、その一家とつながりのある人々、近隣の人々が次々と加わって、新しい共同体が形づくられていく。居間、日本風に言えば客間や茶の間が礼拝堂となつていったのである。プロテスタント日本伝道はたつた

一五〇年余を迎えたにすぎない。ほとんどの教会は、使徒言行録の時代のように家の教会の段階にある。使徒の時代と同じく、家の教会は主キリストの福音とは異なる多くの諸宗教や諸信仰、諸価値観にさらされている。時に、キリストの十字架と復活という出来事よりも「家の事情」が優先事項ともなつてしまふ。牧者が代わる度に、礼拝や教会運営に「揺らぎ」が生じてしまふ教会もある。しかし、そうした諸教会の現実には

落胆してみたり悲観的になるために私たちはキリスト者とされた訳ではない。今の私たちに託されているのは、街のシンボルとなる立派な教会を大通りに建設することもできない。教会に召し集められた今の私たちがなし得る最大の務めは、主の日のとの礼拝をいかに誠実に守るかである。教会通りとは、地域の愛称に留まらず、真の礼拝者たちが行き交う通りを目指しているはずだ。



日曜日の教会通りには、いつもと違う光景がある。誰もがその理由を知りたがるほどの真の喜びにあふれた人々がいる。幸いに満ちた人々の表情がある。そして、天を仰ぎ見ながら自分に示された道を歩み出していく人々がいる。そうした光景が、三軒茶屋教区に広がっていく時、教会は、向かうべき次の段階へと移されていくだろう。

「教会通り」は、昼夜を問わず、今も多くの人々が行き交っている。そこに教会があることをすでに知っている人々は、かつての私たちと同じく、主キリストとこれから出会っていく人々なのだ。信仰の言葉を語り合いながら、「教会通り」を歩み続けたい。